

## ▼トリモール錠・▼細粒 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ピロヘプチン塩酸塩 piroheptine hydrochloride 【分類】パーキンソン症候群治療剤

【単位】▼2mg錠、▼細粒2%

【常用量】6～12mg/日（少量から開始）

【用法】分3

【透析患者への投与方法】薬物動態に関する報告がほとんどなく、透析患者への投与方法に言及した報告もない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】薬物動態に関する報告がほとんどなく、腎不全患者への投与方法に言及した報告もない (5)

【特徴】戦状態ニューロンへのドパミンの取り込みを選択的に抑制する。末梢性抗コリン作用もあるが比較的選択的な中枢性抗コリン作用を有する。レボドパの作用を増強する働きもある。少量から漸増し過量に気を付ける。

【主な副作用・毒性】悪性症候群、眠気、めまい、せん妄、不安、口渇、便秘、排尿障害など

【代謝】脱エチル化されデスエチルピロヘプチンに変換される [ラット] (1)

【排泄】尿中排泄の寄与率は20%であるが、未変化体の排泄率は不明 (1)

【CL】資料なし (1)

【t1/2】資料なし (1)

【蛋白結合率】93～95% [ラット, サル] (1)

【Vd】資料なし (1)

【MW】339.90

【透析性】蛋白結合率が高いため、透析では除去されにくい (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない 【pKa】9.2 (1) 【O/W係数】0.126 [1-オクタノール/水系] (1)

【更新日】20151201

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配言を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。